

社会資本総合整備計画 事後評価書

平成 28 年 1 月 20 日

計画の名称	1 芦屋市の安全・安心な公園づくり		
計画の期間	平成22年度 ~ 平成25年度 (4年間)	交付対象	芦屋市
計画の目標			

芦屋市の都市公園において、公園施設長寿命化計画の策定により事後的な維持管理から予防保全的な維持管理への転換を推進するとともに、老朽化した既存公園施設の改築、公園施設のバリアフリー化を行うことにより、誰もが利用できる安全・安心な公園づくりを推進する。

計画の成果目標（定量的指標）	①都市公園内のすべて施設（建築物、大規模施設を除く）について、長寿命化計画を策定する。 ②芦屋市交通バリアフリー基本構想に基づく都市公園特定事業計画に定められた公園のバリアフリー化率を25%から100%に向上させる。 ③防災拠点に位置付けられている公園のバリアフリー化達成率を25%から54%に向上させる ④老朽化等により平成25年度末までに更新の必要な施設の更新達成率を0%から100%に向上させる。		
----------------	--	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考			
	当初現況値 (H22当初)	中間目標値 (H24末)	最終目標値 (H25末)				
①都市公園内の施設（建築物、大規模施設を除く）について、公園施設長寿命化計画の策定率 施設が長寿命化計画に計上されている都市公園数（箇所） / 市内の都市公園数（箇所）	0%	100%	100%				
②都市公園特定事業計画（阪神芦屋駅・市役所周辺地区）に定められた公園のバリアフリー化達成率 事業計画に定められている公園でバリアフリー化された公園数（箇所） / 事業計画に定められている公園数（箇所）	25%	100%	100%				
③防災拠点に位置付けられている公園における主要施設のバリアフリー化達成率 防災拠点である公園で、主要施設がバリアフリー化された公園数（箇所） / 防災拠点である公園数（箇所）	25%	43%	54%				
④老朽化等により平成25年度末までに更新の必要な施設の更新達成率 改築，更新を行った施設数（箇所） / 平成25年度末までに改築，更新の必要な施設数（箇所）	0%	5%	100%				
全体事業費	合計 (A+B+C)	336百万円	A	388百万円	B	C	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
芦屋市公共事業評価検討委員会	平成27年度
	公表の方法
	芦屋市ホームページ

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業													全体事業費 (百万円)	備考			
A1 基幹事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)						
											H22	H23	H24	H25	H26		
1-A1-1	公園	一般	芦屋市	直接	芦屋市	長寿命化		芦屋市公園施設長寿命化計画策定調査	公園施設長寿命化計画策定	芦屋市						6	
1-A1-2	公園	一般	芦屋市	直接	芦屋市	安全・安心		芦屋市都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業	施設更新，バリアフリー化	芦屋市						330	
小計 (公園事業)															336		
合計															336		

B 関連社会資本整備事業													全体事業費 (百万円)	備考		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)						
										H22	H23	H24			H25	H26
合計																

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

C 効果促進事業													全体事業費 (百万円)	備考		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)						
										H22	H23	H24			H25	H26
合計																

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

- ・都市公園にある公園施設について、長寿命化計画を策定することにより、施設ごとの補修・更新のタイミングが把握できた。加えて、10年間の維持補修・更新に要する費用が明らかになった。
- ・都市公園特定事業計画に定められている公園をバリアフリー化することにより、計画区域内において、誰もが円滑に移動・施設の利用ができるようになった。
- ・防災拠点に位置付けされている公園のバリアフリー化を進めることにより、災害時に誰もが安全に利用できる公園が増えた。
- ・老朽化等により長寿命化計画で予定されている施設を更新することにより、安全に安心して利用できる公園施設が増えた。

II 定量的指標の達成状況	指標① (公園施設長寿命化計画の策定率)	最終目標値	100 %	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	100 %		
	指標② (特定事業計画における公園のバリアフリー化率)	最終目標値	100 %	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	100 %		
	指標③ (防災拠点における公園のバリアフリー化率)	最終目標値	54 %	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	54 %		
	指標④ (更新の必要な施設の更新率)	最終目標値	100 %	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	100 %		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況
(必要に応じて記述)

3. 特記事項 (今後の方針等)

今後も継続して、芦屋市公園施設長寿命化計画に基づく施設の更新、都市公園のバリアフリー化を進め、市民に安全に安心して利用してもらえるよう、公園の利用促進を図っていく。
なお、指標としている達成率は、平成25年度末までの計画達成率であり、公園の利用促進を図るため、今後も更新や計画見直しを継続して進めていく必要がある。

(参考様式3)

